



医療法人近森会

発行 ● 2007年3月25日

www.chikamori.com
www.近森病院.com

びるっば 4

Vol.249

〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

新人を迎えて

自己変革のできる職業人に

医療法人近森会理事長 近森 正幸



画期的な DPC

近森会はこの廿代の地に、近森外科として開設し、「患者さんにとってどうなのか」を絶えず考えながら医療に取り組んで60年になります。

この数年間をみますと、「管理型臨床研修病院」となり、初期研修医を受け入れ始めたこと、「DPCによる一日包括払い」、「7:1 看護」の導入、この三つが近森病院の大きな転換点となり、実り多い時代に入ったことを実感しています。

急性期の診療報酬としてDPCの導入は画期的なことです。医療の質を客観的に評価でき、包括払いであることからコストを下げ、生産性を高めれば高めるほど、収益が上がるようになりました。これらにより、良質で効率的な医療がさらにできるようになったことで、近森病院も大きくかわることができました。

良質な医療サービスの提供

近森会はこれまで絶えず人への投資を行ってきましたが、臨床研修病院になって医師が、7:1 看護で看護師が、集まってくれるようになり、

優秀なスタッフを確保することができるようになりました。

病院は医療を提供するところであり、良質な医療サービスを提供するためには能力の高いスタッフが数多く必要となります。病院の医療機能を特化し高度化するほど、地域医療連携が必要になってきます。一方、医療の質を高めるためには専門性を高め、チームアプローチを行なうことで、チーム医療が欠かせません。病院にとって地域医療連携とチーム医療は、病院らしい病院としてあり続けるためには欠かせることができません。

高齢社会

現在は病院といえども一般企業と同様に、機能の特化と生産性の向上、限らないコストの削減が求められており、それだけ医療を取り巻く環境が変わってきているといえます。あと10年から15年先には、患者さんも急激に少なくなってくると思われる。これまでの医療のあり方を押し進めながら、もっと筋肉質な病院を目指さなければなりません。

この僅か5年ほどで、65歳以上の入院比率が63%から75%にも上昇しています。急激な高齢社会にあって、これからの医療は医師、看護師を中心とした迅速確実な根本治療を行ない、かつ、低栄養に対する栄養サポートと廃用に対するリハビリテーションなどのチーム医療が必要になってきます。

求められる自己変革

高知県は日本でトップクラスの高齢県であり、日本で最も多く病院、病床数を有する県でもあります。そうした高知県の社会の要請として近森会は日本の病院のなかでも先進的な取り組みを行ってきました。病気になるっても、たとえ障害が残っても人間らしく地域で豊かに暮らすことができるような世の中を目指して医療を行なっています。

新しいスタッフは、まずは自分の仕事に一人前になってほしい。自分の専門性を高め、立派な職業人になってほしい。そして絶えず先を見ながら自己変革を続けることができる人間であってほしいと、希っています。

2006年度版 近森会年報

4月1日にアップロードします。

ホームページでご覧ください。

① www.近森病院.com

② www.chikamori.com

心臓血管外科

心臓手術の救命率

2006年、手術死亡率ゼロ

心臓の手術を受ける場合、たとえば術後30日以内の死亡を示す「手術死亡率」は、手術への信頼度を表わす一つの指標になる。

『2006年度版近森会年報』の4月1日アップロード（ホームページ発表）を控えて、最終確認をしていた心臓血管外科の入江博之部長は、並んだ数値を見て「心臓・大動脈・末梢血管、その他の待機手術で2006年の手術死亡率がゼロだと気がついた」。さらに、

「緊急手術でも心臓大動脈の手術死亡率はゼロで、唯一すでに他院で敗血症、多臓器不全を起こしていた患者さんの、緊急止血術一例のみ死亡」という救命率の高さが、改めて資料で実感できたという。

ちなみに、2000年から2006年までを通算してみても、心臓の待機手術では死亡率0.7%、胸部大動脈手術で死亡率ゼロ、腹部大動脈手術で1.0%という低い数値が確認できた。

※次頁へ続きます。



世界標準で算出されるユーロスコアと呼ばれる手術の危険度を示す「予想手術死亡率」で待機手術の平均値が6.03%、緊急手術に至っては18.50%という数値が出されているのとは比べると、近森病院の心臓手術の信頼度の高さが実感できるのではないだろうか。

手術件数と手術死亡率の関係

ただし、入江部長は「手術死亡率ゼロは結果としてたまたまそうなっただけ。好成績を残したいと、条件のいい患者さんを選んで手術しているのではない!」と、いつも通りのきっぱり厳

しい口調で語っている。

心臓手術の件数が増えると死亡率が下がるという新聞報道を見たことがあるが、症例の多さを誇る近森病院にあって、心臓血管外科のこの数字は、患者さんにとっても大きな安心材料と映るに違いない。

5周年を迎える近森病院ハートセンター

入江部長はいま手術や診察の合間を縫って、4月8日に開かれる近森病院ハートセンター5周年記念講演会（※詳細は右欄をご覧ください）に向けて、チームで準備を行なっている。

2月17日（土）に高知市文化プラザかるぽーとで、第18回日本老年医学会四国地方会が開催されました。そこで、学会長を務めた近森病院内科の深谷眞彦部長にご報告いただきました。

日本老年医学会四国地方会のご報告 焦点をしばる工夫をした学会

近森病院内科部長 深谷 眞彦



開会挨拶を行なう学会長の深谷眞彦部長

この学会では演者や座長として、そして、学会の運営にと近森会の多くの職員の皆さまが活躍しました。当日はあいにくの雨天にもかかわらず140名近くのご参加を得、例年の1.5倍以上という盛況ぶりでした。近森会の皆さま、および学会事務局を担当した高知大学老年病科の皆さまには心から御礼申し上げます。

日本老年医学会は昭和37年に発足した学会で、心疾患、血管疾患、脂質代謝、糖尿病、神経疾患、老年医学等々の幅広い領域のみならず、福祉と医療の連携など成人、老年医療に関する諸問題に総合的に関わる学会です。

現在の会員数は6500余名で、老年病専門医の認定制度を持っており、近森病院はその教育施設に認定されています。年1回の総会が開催されますが、さらに全国を9地方支部に分け、各々の支部単位で開催される地方会があります。四国地方会は年1回開催されています。

今回の学会では、一般演題の他に老年医療ミニレクチャーとしてコ・メディカルスタッフを含む4名の講演を企画しました。討論が白熱したようでした。

ランチョンセミナーには心臓血管研究所の山下武志部長に「心房細動の薬物治療」と題して講演していただきました。

教育講演は「高齢者の不整脈」と題する教育企画シンポジウムに拡大して3名の教授に講演していただきました。橋場邦武長崎大学名誉教授は「高齢者不整脈オーバービュー」、清水昭彦山口大学大学院教授は「高齢者不整脈の薬物療法とその留意点」、大江透岡山大学大学院教授は「高齢者不整脈の非薬物療法とその適応」についての講演でした。以上のように午後からは、その後の一般演題も含めて全て循環器にまとめ、とくに私の専門領域の不整脈に重点を置いた学会としました。

参加の先生方からは半日で濃密な勉強ができたと好評でした。小さな学会の場合、今回のように焦点を出すのも一つの在り方かなと思いました。



2007年4月8日（日）10:00~12:00

高知市文化プラザ

かるぽーと大ホール

演題

「ハートセンター5周年の実績」

ハートセンター・循環器科部長

川井和哉

「セカンドオピニオン外来」

ハートセンター・心臓血管外科部長

入江博之

「心疾患急性期における看護師の役割」

榊原記念病院看護部長 三浦稚郁子

「心臓外科 最近の進歩と問題点」

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

心臓血管外科教授 佐野俊二

「心血管病の予防と高齢者の健康」

高知大学医学部

老年病・循環器・神経内科学教授

土居義典



献血バスがやって来ます!

献血にご協力ください。

9:00~13:00 かるぽーと1階 広場



▲当日担当のスタッフの皆さん

近森病院 第1期初期臨床研修医 研修を修了

管理型・協力型の臨床研修指定病院

新医師臨床研修制度の開始に伴い、近森病院は平成16年に管理型・協力型の臨床研修指定病院に認定され、平成17年度に管理型として初めて第1期の初期研修医を受け入れました。

そして、今春その第1期生が初期臨床研修を修了し、それぞれのキャリアデザインを胸に、後期研修の道へさらなる一步を踏み出そうとしています。

ここにいたる道程のなかで、近森会や協力型の医療機関の指導医を始め、いろいろな方のご協力をいただき感謝いたします。



担当の浜重直久近森病院副院長(左)と、北村龍彦近森病院副院長(右)へ感謝の花束

パイオニアとしての苦労とやり甲斐

振り返ると、臨床研修指定病院の認定までの体制づくりや、協力型医療機関および院内での基盤整備など管理面の調整と、研修医の募集から獲得までの苦労がありました。また、1期生の研修医には医学的な研修と医療人として人格の涵養に努める以外にも、近森病院の臨床研修体制の熟成のためにパイオニア的な苦労もかけたことと考えます。しかし、彼らは多忙ななか、充実した研修生活を経て、頼もしい医師に成長しつつあります。

近森病院専用『研修医マニュアル』

初期臨床研修後の進路は9名の研修医のうち4名が近森病院で後期研修を希望し、5名が大学や別病院での後期研修に進みます。彼らは、近森病院での研修医のつながりが継続できるようなネットワーク構築や『研修医マニュアル』作成という置き土産も残して巣立っていきます。

医師の使命と青雲の志

診療も、すべての活動も「あなたのために」の精神で行動することは基本

近森病院研修管理委員会委員長
近森病院 副院長・外科部長

北村 龍彦



初期臨床研修修了式で、中央の近森正幸理事長と、修了証を手に、修了生の皆さん

と考えられます。研修医には、今後も医師としての使命、青雲の志を忘れずに、患者さんをはじめチーム医療全体を統括するコンダクターとしてステッ

プアップした後期研修に邁進すること、臨床面のみでなく、研究・教育も含めて成長し、それぞれの道で大成されるよう期待しています。

医療安全シリーズ④

効果的指導のできる環境とは

医療安全担当看護師長 青木 千利

経営コンサルタントの高原昭雄氏は5S（整理、整頓、清掃、清潔、躰）のなかで、整理とは必要な物と不要な物を分け不要な物を捨てること、整頓とは必要な物がすぐに取り出せるように置き場所、置き方を決め、表示を確実にこなうことであると定義されている。

ここで改めて整理と整頓は全く異なる意味を持ち、これこそが職場管理の基本であることを思い知る。多種多様な物が溢れ、次々と導入される多くの使い捨て新商品が多い医療の現場では、ハード面・ソフト面ともにシステムの変更が余儀なくされる。

情報もしかり。過多 過少 誤報、我々はそのなかで必要なものを必要な分だけ適切に選び、日常業務に役



5S
整理、整頓、清掃、清潔、躰

立てなければならない。

フレッシュな新入職員を迎える時節であり、職場は即戦力を期待した新人教育計画表にパズルの如く、無理難題な内容を書き込んではいないだろうか。

散弾銃のように次々と放たれる課題に「こんなはずでは無かった」と追い込まないようにするためにも、物と情報の整理・整頓で、まずは効果的指導のできる環境を整えたいものである。

臨床栄養部発足

近森会臨床栄養部 部長 宮澤 靖



開院当初から病院給食を重んじてきた近森会の長い歴史のなかで、このたび栄養科は全国的にも稀である「臨床栄養部」として再編され、臨床栄養管理を重視する姿勢をより明確に打ち出した。

管理栄養士は「食事を作る人、たまに栄養指導に来てくれる人、医療職ではない」という概念が社会全体で既に出上がっているなかで、近森会が臨床栄養管理に特化した部署を設立する意義は大きいものと考えている。

私が5年前に近森会に着任した際には4名の管理栄養士が在籍していたが、現在では、15名の管理栄養士と2名の長期研修生を抱える大きな部署に成長した。この過程においては近森理事長の「低栄養の改善とリハビリが、廃用症候群を防ぎ、治療効果を高める。合併症も減少し、とくに高齢者ではそれが顕著である」という方向性と、川添管理部長の管理栄養士に対する多大な理解があったからだと思っている。

いうまでもなく、だいいち各診療科の先生方、看護部、薬剤科、リハ部、臨床検査科など他部署のスタッフのご理解の賜物であると思う。

チーム医療は1+1=2にならず、時に5になり6になることがある。その一翼を担えるような管理栄養士の集団に成長できるよこれからも多くの皆さまの指導とご協力を得ながら成長し続ける部署を目指してゆきたい。

また、地域NSTの確立を目指し、多方面に情報を発信できる部署でもあり続けてゆきたいと考えている。「臨床栄養部」となっても引き続きアメニティーを重視し、安全でおいしく治療効果のある食事の提供は今まで以上に精査を加えていきたいと思っている。

今後とも新生管理栄養士集団「臨床栄養部」をよろしく願いいたします。

新館7階栄養科前で左から、内山さん、真壁さん、上村さん、吉田さん

「MBOの限界」

近森会 臨床栄養部

近森病院栄養科 科長 真壁 昇

MBO(目標による管理)には限界がある。ソビエト計画経済の失敗が語る中期計画の無意味さ。むしろ「計画通りなら失敗と思え」と言われている。一方、重要となるのが「意図された創発」。チーム医療によるコミュニケーションにより、医療人としての能力が培われ、創発から予測を超えた成果が生み出せるよう環境整備を行い、OJT(On the Job Training)活動を通して、多くの仲間たちと頂を目指したい。

「Nutrition support」という専門性

近森会 臨床栄養部

近森病院栄養科 主任 内山 里美

近森正幸理事長の思いが生きるこの近森会は、各職種が高い専門性を持ち、チーム医療の意識が根付いたすばらしい医療現場であると日々感じています。このような環境で主任という辞令をいただき責任の重さに身の引き締まる思いですが、宮澤部長のもと、心強い上司・仲間と一緒に「Nutrition support」という専門性をさらに高めたいと思います。今後ともどうかよろしくおねがいします！

栄養とリハビリの重要性

近森会 臨床栄養部

近森リハ病院栄養科 科長 上村 二美

このたび、リハビリテーション病院臨床栄養部科長の辞令をいただき身の引き締まる思いです。

超高齢社会に対して、栄養とリハビリの重要性が認識されるようになってきました。急性期病院との連携を深め、患者さんが地域へ帰れるよう、必要とされる管理栄養士を目指して行きたいと思っています。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

精神科栄養士の大きな使命

近森会 臨床栄養部

第二分院栄養科 科長 吉田 妃佐

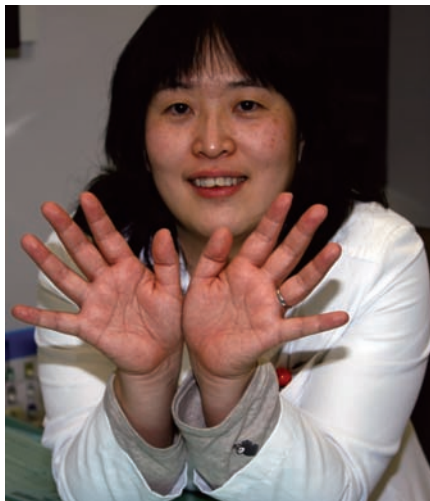
このたび、臨床栄養部・科長の辞令をいただきました。これまでの科内、科外の多くの方々の支えを思い、あらためて感謝の気持ちでいっぱいです。第二分院では、2月から管理栄養士2名体制となり、また新たな希望と勇気を持って業務の再構築を図っているところです。患者さんが地域で生活される上で不可欠な服薬・金銭・食の自律。精神科栄養士の大きな使命として、病院と地域を栄養と食の切り口から橋渡しできればと願っています。まずは「今、ここ」から！皆様、これからもよろしく願います。

乞 熱 応 援

注目を浴びる糖尿病を…

糖尿病内分泌代謝内科

科長 葛籠 幸栄



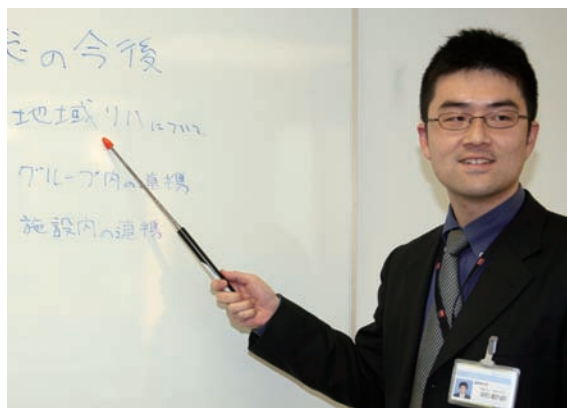
この3月1日付で科長を拝命いたしました。ひとえに皆様方のご支援、ご尽力の上であり大変感謝しております。

科名が聞き慣れないなと思われる方が多いかと思えます。昔は糖尿病やましてや内分泌の病気は存在しても数が少なくあまり取り沙汰されることが少ない分野でした。しかし世の中が豊かになり、患者さんが増えるにつれメタボリック症候群などという取り上げられるようになりました。

また厚生労働省の方針変更から予防医学がもてはやされるようになり、糖尿病は万病のもとだと注目をあびるようになりました。人間の体はホルモン、免疫応答によって調節されているといっても過言ではないと思われま

それはひいては腎臓や、膠原病といった病気にも結びついてくると考えられます。

私が現在、これから先も専門にしていきたいと思っている分野において診療の機会を与えていただいたことを大変感謝しております。皆様にご教示ご鞭撻をいただきながら自分なりに頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひいたします。



在宅総合ケアセンター近森

事務長 宗石 勘九郎

足でこれまで以上に密接に…

昨年11月21日付けで、在宅総合ケアセンター近森事務長心得の辞令をいただきました。12月の1ヵ月間、鳥取の社会福祉法人こうほうえんにおいて介護保険事業についての研修をさせていただき、1月から在総に腰を落着けて微力ながら日々努力しています。

2月19日に開かれた管理部長塾において「これからの在宅総合ケアセンター近森」と題しまして鳥取での研修で学んだこと、今後の在総の展望についてお話をさせていただきました。

こうほうえんでの研修については、会議の手法としてCFT（各部門の代表が一定期間、問題解決に集中的・組織的に取り組む組織改革活動、「組織横断

型チーム」と訳されている）や顧客満足の追求を目指しJQA（日本経営品質賞）など、在総ではこれまで行なわれてこなかった取り組みについて説明しました。

また在総の今後については現状の課題等をあげた上で、在宅支援と地域リハをさらに充実させるために今後取り組んでいきたいことについてお話ししました。在総は近森会の施設の中では少し離れた（ほんとにちょっとだけけど…）所がありますが、近森会のどの施設ともこれまで以上に密接な連携が作れるように、「足を使って」努力して行きたいと思ひます。ご指導のほど、宜しくお願いいたします。



看護寮まち
刈谷 友美



一歳の子どもの趣味は…、母のおかげです。

私が小さい頃は「おかあさんといっしょ」という教育番組が放送されており、妹と毎日テレビにかじりついて見るほど大好きでした。

この写真はその中の「歯みがきじょうずかな」というコーナーの真似をしているところです。母は虫歯が多かったため、私と妹には自分の二の舞はさせまいと歯みがきを徹底していたそうです。一歳くらいから歯ブラシを持たされていたのだとか。そんな母の努力の甲斐あってか、今まであまり虫歯に悩まされたことがないように思ひます。今となっては、看護婦としていつも張りきっていた母のしつけに感謝の気持ちでいっぱいです。

● 4月の歳時記 ●

桜

花言葉は精神美、淡白、純粋、約200~300種類あるそうです。

日本では山桜、八重桜など観賞用の桜が多いけれど、外国では西洋ミザクラといってサクランボのための木がほとんど。

観賞用として愛でられている山桜や八重桜なども実はなるけれど、にがくて美味しくありません。

チェリーという日本では桜の花を思い浮かべますが、西洋ではサクランボのこと。桜の花はチェリーブLOSSAM、花を楽しむサクラのことはフラワリングチェリーと呼んで区別しています。



文と画
診療情報管理室
市木 幸
鍵本 由紀

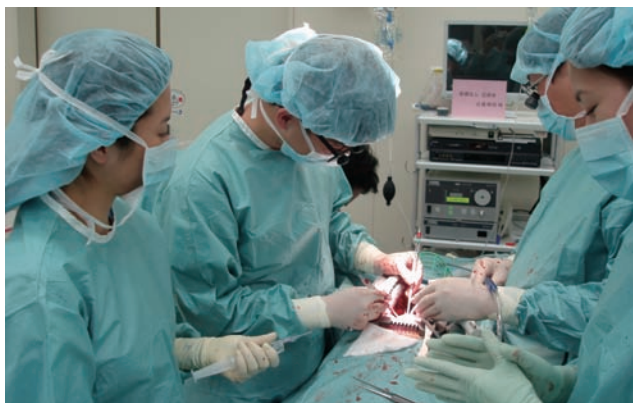
(バラ科のサクラ属)

研修報告 ● 手術手技トレーニングの研修

於 福島県須賀川市のエチコン・トレーニング、2月23、24日

見るのとやるのは大違いを実感

心臓血管外科医師 藤田 康文



左から桑原Ns、藤田Dr、入江Dr、菜名Ns

豚を使った手術手技研修を受ける機会をいただきました。入江先生の指導のもと、手術室の菜名さん、桑原さんのサポートを受けながらの研修でした。

普段の手術室の環境そのままに研修を受けることができたので、手技の習得にのみ集中することができ、非常に有難いことでした。

行った手技は生まれて初めてのものばかりで、冠動脈バイパス術のための内胸動脈の採取、心拍動下冠動脈バイパス術、大動脈弁置換術でした。

内胸動脈の採取では、周囲の組織を全て剥離する筈なのにそれができませんでしたが、初めてにしては上出来と



評価をいただき、胸を撫で下ろしました。冠動脈バイパスでは動く心臓に血管を縫い付ける作業がとても難しく、非常に時間がか

かった上に出来栄が悪いという結果でしたが、吻合部からの出血がほとんどなかったのが救いでした。

大動脈弁置換術では、針を縫い付ける場所が不適切で何度もやり直しを指示されました。

いずれの手技もふだん入江先生が苦もなくされているのを見ているのと実際行うのでは雲泥の差があることを実感できました。

また、それぞれの手技の注意点、自分に足りない点と今後行うべき練習方法に関しても学習することができました。このような貴重な機会を得ることができましたことを関係各位に厚く御礼申し上げます。

薬用酒アラカルト ㊦ 干し柿酒



今回は、おばあちゃんを思い出す懐かしい冬の味覚、干し柿をお酒にしました。生のフルーツではなく、干したものを漬けるのは、初めての試みです。

材料はまたまた理事長のお勧め、日曜市で購入したものをいただきました。干し柿酒には、止血、充血、咳止めノドの痛みなどに効果があるといわれています。

<材料> (密閉容器 1L分)

干し柿 4個

ホワイトリカー 約 800ml

<作り方> ①干し柿はヘタを取らずに水洗いし、よく水気を取る。②ホワイトリカーを注ぎ、漬け込む。

<コメント> 数日後、どんな状態かと恐る恐る戸棚を開けてみたところ、シワシワだった干し柿がぷっくり膨らんでいるのにびっくり!その後、だんだんとお酒に柿の色合いが出てきました。

漬け込んでから約1ヵ月後の『ひろっば』編集委員による試飲会では、「ラム酒のような濃厚さだが、後味はさっぱりしている」、「甘くて濃いので食前、食後ともOKだが、とくに食後がいいかも」、「食欲増進になりそう」などの感想をいただきました。

みなさん、子どもの頃の日向のにおいや、甘い秋の恋を思い出しながらの試飲会になりました。砂糖を加えなくても十分な甘みがあるので、ストレートで、ロククで、ぜひお試しを!

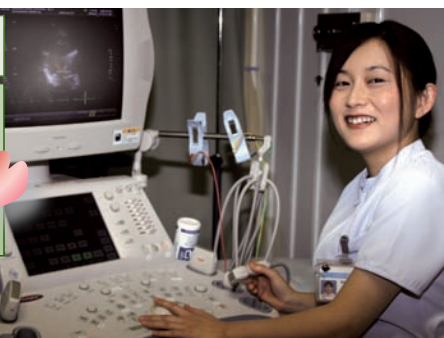
試飲後、漬かってきた干し柿の実を、ひろっば編集委員さんが、「手間暇かけてできた干し柿を、酒くさい、苦いという利用しないのはもったいない」と、黒砂糖とハチミツで煮詰めて和菓子風に仕上げてくださいました。

作り方は、黒砂糖とハチミツを同量ずつお好みで加え、弱火で3~5分程煮詰めるだけ!とのことでした。試食しましたが、甘さのなかにほろ苦さがあり、干し柿の風味もしっかり残っていて、お茶請けにぴったり!こちらの方もぜひ、お試しください。(文と画 薬局 嶋崎 ユリカ)

日本超音波医学会認定

超音波検査士

資格試験に合格しました
臨床検査技師 池内梨沙さん



卒業後すぐに勤めた前の病院で、大先輩が持っていた超音波検査士の資格を、「自分も経験年数が足りたら挑戦したい。心電図や心音によって予測したことを、実際に自分の目で確かめられるのってステキでしょ!」。臨床検査技師の池内梨沙さんは、こんなノリで大先輩を眺めていたというから、偉い。

症例が多くて自身の勉強にもなるからと、近森会への就職をお勧めくださった先生への「ご恩に報いる意味でも早く形が見えるものを残し、次のステップへ進めるように努力します」と、ファイトもいっぱい、それがこうして爽や

かに結果が出せるから、次への意欲にも繋がる好循環になっている。

近森会に勤めて丸3年が過ぎた。臨床検査技師としてどの分野もこなせるオールマイティを目指すのが、せつかく得た超音波検査の資格を大事に、「資格を取ったということに甘えるのではなく、きちんとした所見を自信をもって返せるようにガンバります」。

決意表明もやっぱり優等生、仕事のことを考えるのがとても楽しい、充実した毎日があつという間に過ぎている。

2月の診療数	近森会 外来患者数	17,846人	企画情報室より
	近森会新入院患者数	769人	
	近森会 退院患者数	771人	
	地域医療支援病院紹介率	88.55%	
	近森病院平均在院日数	15.77日	
	近森会 平均在院日数	23.33日	
	近森病院救急車搬入件数	337件	
	うち入院件数	180件	
	手術件数	348件	
	うち手術室実施	230件	
	全身麻酔件数	127件	

新たな一歩へ、この春に

近森会の改革の節目節目でご活躍くださったお三方が、この春それぞれに新たな一歩を踏みだされることになった。そこで、これまでの日々を振り返っていただき、また今後へ寄せる思いなどお話しいただきました。

お話のなかではお三方ともに、「近森会の皆さまにも世間さまにも、ご厚情にくれぐれも御礼申し上げたい」と強調されていますので、最初にその点をまず記しておきます。



総務部長
松木秀樹さん

高知市内中心地からちょっと郊外へ向かうと、しろかきの田んぼの水がお日さまに映えて気持ちのいい頃になった。土や水や緑に近い生活は、それを想像するだけで何だか癒される気分にもなるが、松木秀樹総務部長がこの春から始められるのが、まさにそんな生活である。

香長平野のだ真ん中の広々とした農地を、85歳になられた父上の「口が達者なうちに跡取りの私が引き継いでおかなければと、追い立てられるような気分」で、定年までには少し間があるが、この時期に決断されたという。きっかけは父上の腰椎圧迫骨折だった。

乾燥機やトラクター、稲刈り機など大がかりな農機具を使う時期さえはつきりせず、米を始めとする野菜や数々の果樹の世話など、「このまま荒らすには忍びない規模をどうするか、ここ数年で決めなければならなくなっていた」から、父上の大怪我が「肚をくくるきっかけになった」のだという。

現場の技士の仕事を離れて管理部門に異動して10年になる松木さんだが、昭和52年に近森会に就職したとき、当時はまだ臨床工学技士が国家資格ではない頃で、透析科の技士として近森人生のスタートを切った。あれから30年、「透析部門の標準化。つまり、誰がやっても同じ結果の出せる仕事の仕方を技士たちに伝えてきたつもり」だと振り返る。透析部門でも管理部門でも、

これで仕上がりということはなく、日々進化が求められるが、土台の構築に関わられたという自負は、農と食とに関わる第二の人生の大きな拠り所になっていくに違いない。老親や妻や子どもたちと、土や水や緑に癒される生活をいまはしみじみ楽しみに待っている。

川添管理部長は送別の辞として、陶淵明の有名な詩の一節を贈っている。

「帰りにんいざ 田園まさ荒れんとす なんぞ帰らざる」

介護老人保健施設いごっばち 看護師長 北岡一恵さん



「近森会をこの春に卒業します！」

これが北岡さんの第一声だった。18年前、近森会で基準看護が始まったばかりの頃、「地域看護をやりたくて」近森会の門を叩き、以来「急性期、回復期、維持期と、看護の一通りを学ばせていただきました。職種も豊富で色々な職種の皆さんとも仕事ができました。ホントに貴重な経験でした。さっぱりしてるんです！」

日頃の仕事ぶりと同様、卒業の弁もいたって明快。そうそう、近森会で経験できた有難いことのなかに「ペーパードライバーを克服できたこと。海外にも旅行ができ、とくに研修で豪州に行きハダで豪州の医療を感じられたことは意義深かったです」と、医療の大きいことから日常の細かいことまで、なんもかんも有難かったということだ。

マンションのローンが30年ちょっと残っているそうで、「そのローンのた

近森病院第二分院 総看護師長 宮内美紀子さん



「心の込もった温かく盛大な送別会で送っていただき、抱えきれない程のやさしさや思いをいっぱい抱えて、胸が熱くなっております。

近森会での12年は、メンタルリハビリテーションセンターの独立、病院の新築・移転、病棟機能の再編成、パティオの開設、機能評価、PCシステムの導入…と変化し続ける中で、あるべき精神科医療を模索し、自分たちの目標とする精神科医療に向かって疾走した気がします。やりたかったことができる機会と場を与えられたとても充実した日々でした。エネルギーを仲間達や患者の皆様から戴きながら「患者さんにとって良いこと」には夢中になれるチームメンバーと、時には周りの人がハラハラするほど思い切り意見を闘わすことができる安心感と信頼感の中で、力を合わせて実現していく楽しさ、醍醐味を体験させていただきました。

今更ながら失おうとしているもの大きさにたじろいでいます。今後は、90歳と81歳になる両親との生活を大切に、予定表に何も書かれていない自在な日々を楽しみながら、私自身の次のステップに備えたいと思っています。」

め、また自分の老後のためにも今後とも働き続けます」と意気盛ん。

町で北岡さんを見かけたら、皆さんどうぞ気軽に声をかけてください。

シリーズ●クリニック探訪23

町田整形外科 いの町天王南一丁目

http://www.machidaseikei.com/
e-mail:hiroekai@kcb-net.ne.jp

tel. 088-891-6565 fax.891-5005 天王ニュータウンの大通りに面して南側



院長・町田博久/S26年
3月23日、いの町鹿敷生まれ。趣味はゴルフ

▲生活習慣病の予防が国民的課題とも言える
 昨今、治療に加えてその予防の徹底を目的に
 「疾病予防施設・OXY(オキシ)」を昨春開設。
 日本に3台しかないという脊柱・下肢のバ
 ランス調整マシン「ユベール」、インナーマ
 スルを鍛える「キネシス」等を充実させ、個
 人プログラムでココロとカラダをサポート。

疾病予防施設・OXY(オキシ)



診療科目 ● 整形外科、リハビリテーション科、麻酔科

診療時間 ● 9:00~12:30 ※木曜午後は手術日
 13:30~18:30 ※土曜 17:00まで

休診 ● 日曜、祝日

市民公開講座
お知らせ

「再生医療とは」

— 21世紀の夢の治療について —
 NPO 法人再生医療推進センター
 理事長 井上一知先生

「アルツハイマー病と
再生医療の取り組み」

— 夢の治療の実現へ —
 日本シェーリングリサーチセンター
 センター長 桜田一洋先生

日時 平成19年5月19日(土)
 開場 午後1時30分
 開演 午後2時~4時
 会場 高新文化ホール(高新放送会館東館7階)
 主催 NPO 法人再生医療推進センター
 共催 医療法人近森会 近森病院
 問合せ 近森病院 地域医療連携室 ☎ 088(822)5231

図書室便り (管理棟図書室 2月受入分)

- ・ HANDBOOK OF CLINICAL NEUROLOGY 3rd Series Vol.82
- ・ 最新整形外科学大系 20 骨・軟部腫瘍および関連疾患 / 吉川秀樹(専門編集)
- ・ 新・抗生物質の使い方 第2版 / 清水喜八郎(他著)
- ・ 日常検査はこれで習得 腹部超音波/ハンドブック / (社)日本臨床検査技師会(編集)
- ・ 全成分表示に対応した化粧品成分ガイド 第4版 / 湯浅正治(他編著)
- ・ 新・医学ユーモア辞典 改訂第2版 / 長谷川榮一
- ・ 大動脈瘤・大動脈解離診療のコツと落とし穴 / 田林暁一(編集)《寄贈本》
- ・ 成長ホルモン分泌不全症の臨床 / 千原和夫(他監修)
- ・ 肝臓(雑誌)14,19,21(7-12),23(7-12),24,25(7-12),26(7-12),27,28,29(7-12),30-33《1973-1992》
- ・ ACTA PATHOLOGICA JAPONICA(雑誌)17,24-26《1967-1976》《別冊・増刊号》
- ・ NEWMOOK 整形外科 20 リハビリテーション / 越智隆弘(他編集)《ビデオ・DVD》
- ・ VIDEO JOURNAL of Japan Neurosurgery vol.15.No.1 / 日本脳神経外科学会(監修)

編集室通信

▼新入職員を迎えるに当たり各部署の研修も開かれ、新しい風を受け入れる体制が整ってきました。そこで思うのは中堅クラスの教育体制を充実させることにより、新人にとっても実力の出しやすい、力を活かせる体制ができるということです。定期的な中堅の教育、ともに考えましょう! (松)

※2月の診療数は誌面の都合で6面です